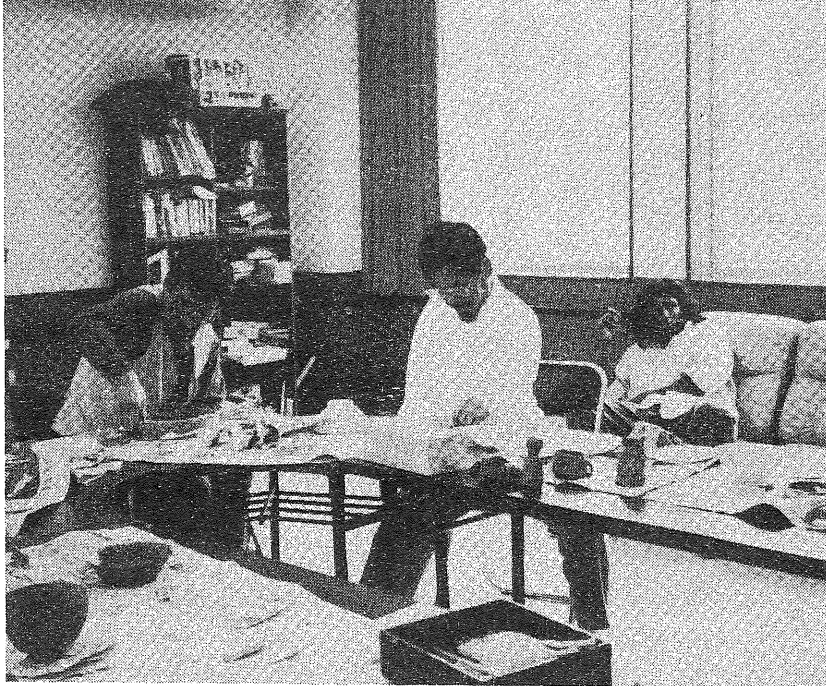


向島の催し、ニュースは、愛隣館研修センターへお知らせ下さい。

愛隣館研修センター ニュース

社会福祉法人イエス団
愛隣館研修センター
〒612 京都市伏見区向島二の丸151
TEL 075-621-3849
FAX 075-621-1579
発行 平田 義
編集 惠 大一郎



陶芸教室始めました!

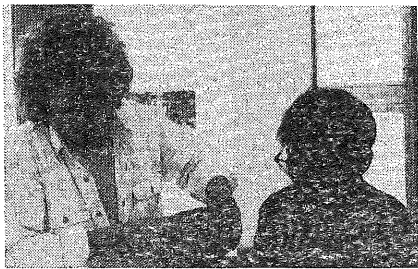
デイサービス利用者対象

大作つくるぞ〜っ

当デイサービスセンターでは、この四月より教養娯楽とレクリエーション、はたまた指先の機能維持を兼ねまして陶芸教室を始めしております。講師には、日本に住んで、もう十何年になるというアメリカ人のダレン・ダモンテ師匠。しかも、関西暮らしが長いとのこと、関西弁はお手のもの。教室のそこそこで心惜いばかりの関西風ジョークを飛ばして下さいます。そのせいか、利用者の面々も軽口を飛ばしながら、心地よさそうに粘土をこね回しています。開始当初、いきなり皿や茶わんは難しいのではないかと思いきや「とりあえず、箸置きでも作るか」と言っていたのですが、記念すべき第一回目に「箸置きなどかつたるい!皿

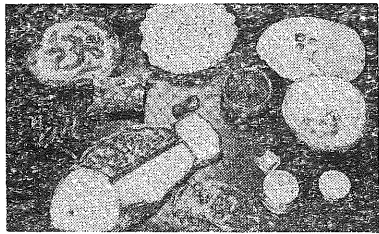
を作るうー」と言う声があがり、行きなり一回目からダモンテ師匠にお皿の作り方を教わりました。利用者の方も真剣そのもの。にわか芸術家があちこちで誕生し、「君、それではダメだよ。ワシの方がうまいな〜」いや、ワシの方がセンスがいい〜等々、好き勝手な事を言いだす人が続出です。また、不思議と性格が出るもので、気の短い人は五分も経たないうちに、「もうこれで十分やわ。完成!〜」と喋り足そうにタバコを

次ページへ続く……



＜ダモンテ師匠と弟子(?)＞

ふかしたり、ちよつとしたところが気に入らないと見えてつぶしては作り、つぶしては作りしている人等、様々です。作ったお皿を、ダモンテ師匠の窯へ持ち帰ってもらい、素焼きをした後、思い思いに絵付けをしました。この間、第一回作品が出来上がって見ましたが、なかなかのモノでした。(職員の江氏の作品は見るに耐えませんでした)。どの様な作品に仕上げようか頭をひねったり、手先を動かすことに全神経を集中したりで、一工程終わる頃には、皆少々疲れ気味の様子。でも、手先や頭のリハビリにはもってこいの作業のようです。これからも、趣味として楽しみながら、ウデを上げていきたいと思っています。



＜力作の数々…＞

◎ この陶芸教室に対して利用者の面々が、次のようにコメントしてくれています。

・ やつてとてもおもしろい。土をさわっていると、自然に触れているようにうれ

しい。
・ 身体の不自由な人ばかりなのでもう少し手助けがあればもっといいモノができると思うが、おもしろいので参加口としていい。

・ 粘土をさわっていると、昔を思い出して、何を作ろうかなと考えるのとワクワクしてくる。陶芸教室の日が、待た遠しい。

夏期献金のおねがい

～ 3階増設へ向けて ～

当センターが、この向島の地に誕生して、早16年が経とうとしています。今日まで、皆様方に支えられ、活動が続けることができましたことを心より感謝します。これまでも、「障害」を持つ方、お年寄りや子どもたちが、安心して暮らせる“場”づくりを目指して、様々な活動に取り組んできました。そして、93年には、念願のエレベーター設置、身体「障害」者デイサービスの開設と具体的に事業も拡大してまいりました。そしてこの度、3階を増築し、新たに96年度より身体「障害」者の入浴サービスを始めて頂けることとなりました。

これまでも皆様方には、多大なるご支援を頂いてまいりましたが、この度の増築事業をご理解頂き、以下に書いております「夏期献金要項」を参照して頂き、ご協力頂けますよう改めてお願い申し上げます。尚、このニュースに先立ちまして発行いたしました「募金要項」をご覧頂き、すでにご献金くださった方にはご無礼をいたしておりますが、悪しからずご容赦頂きますよう、お願い申し上げます。

よろしくお願ひいたします！

容赦頂きますよう、お願い申し上げます。

夏期献金・要項

◆目的

当センター3階を増築して、特殊浴槽を含む入浴設備及び休養室等を設置することにより、重点介護型のデイサービスセンターとして地域福祉の向上を目指す。

◆工事日程

1995年9月1日～1996年1月31日

※工事期間中は、何かとご迷惑をおかけいたしますが、増築の趣旨をご理解頂き、何卒ご

◆夏期献金・目標額

3,000,000円
※口数、金額とも任意です。

◆送金方法 ※以下の口座をご利用ください

《郵便振替》

京都 01020-5-39321

口座名：社会福祉法人仁心会 豊岡研修センター

《銀行口座》

京都銀行 向島支店 普通：939378

口座名：豊岡研修センター2・3階増築募金 代表 平田 義

◎お花見決行！！◎

～ 4月4日・19名が参加 ～

去る四月四日(火)、四月初頭としては珍しいくらいに暖かい中、デイサービスのお花見に参りました。行き先は平等院で有名な宇治市の宇治川・塔の島。参加者は利用者、スタッフ共で十九名。折からの天候不順に影響されてか、お目当ての桜の方は一分咲きと少し期待を裏切られた感はありましたが、モノは考えよう、利用者の中からは「満開よりも、これくらいの方が風情があつてええわ」という達人のような意見も飛び出してました。しかし、少しお酒が入ると、「これは花見とは言わず、桜見じゃな」と、ホンネがちらり。

そういつた評価はさておき、日頃、デイサービスに通ってきたり、買物に行く以外は、なかなか外出の機会が無い利用者の方も多く、久しぶりの長い時間の外出に、ポカポカ陽気も手伝って、「はあ、外にでるのは気持ちいいなあ」「なんかのんびりするなあ」と歓喜の声がそここで上がっていました。

利用者、スタッフ共、マンネリの生活から抜け出し、心身共にリフレッシュできた一日でした。こうした機会をどんどん取り入れ、潤いのある生活づくりを目指していきたいと思えます。



＜結構な枝ぶりです＞

福祉制度勉強会

講師：谷口 明広氏(自立生活問題研究所所長)

去る五月三十日(火)、自立生活問題研究所所長の谷口明広さんをお招きして、今年度から京都市で実施される「介護人派遣制度」についての学習会を行いました。

谷口さんは、京都の障害者運動の中では、「知る人ぞ知る」人といえども、彼を知らない人がいれば「もぐりだ」と言われるほどの有名人。お忙しい中を、時間をさいて当センターまでお越しいただきました。

谷口さん自身も、脳性麻痺による重度の「障害」者。大阪の養護学校卒業後、桃山学院大学に入学、その後、同志社大学の社会福祉専攻科の修士課程を修了され、アメリカのカリフォルニア州のバークレーにあるCIL(自立生活研究所)にて一年間研修された豊富な経験と知識をお持ちのバイタリティあふれる紳士。その巧みな話術と、生活に密着した具体的なお話しに、参加者一同、すつかりのめり込んでしまい、一時間を予定していた会も、終わってしまえば何と二時間半にも及びました。

お話しは、まず、京都市が実施する「全身体障害者介護人派遣事業」の概要についての説明がありました。この制度は、重度の全身体障害者のため、日常生活を営むことに困難な状況にある「障害」者に介護人を派遣する制度で、京都では多くの「障害」者のグループがこの制度の確立を求めて京都市と交渉してきた結

果、やつと実を結んだものだらうです。実施はこの十月からは未確認のところもあるという前提で、今現在つかんでいる情報について、述べていただきました。

まず、この制度の対象になる者は、上肢・下肢・体幹のいずれにも障害がある十八才以上の人。コミュニケーションのとれる人。介護者のコネの両親共六十五才以上の人。同人と、かなりの制約があるそうです。また、介護者については京都市のトレーニングを受けた者に限られる点や、外出の介護はできないこと、一カ月最大六十四時間しか利用できないことなど、まだまだ問題点が数多くあることを指摘されました。

「介護人派遣制度」についての説明の後、次に、障害者が生活をする上で、受けられる様々な制度について具体的に話していただいた。この話題になると、参加者の多くは自分たちの身近な問題であるために、熱っぽい質問が集中し、講師の話のこしを折ってしまうこともありましたが、参加者の一人のAさんは、「たいへんわかりやすい話でよかったです。知的障害者や軽度の障害者で介護の必要な人たちについての問題も今後考えていかなあかんあ。」と感想を述べられていた。

* ぼくが調べた！ 向島の歴史 *

連載 第14回

柏木正行

中書島界限：

そうした程やかで居心地の良い『めぐみホーム』（セントニース二八号参照）にいとまを告げ、大手筋の西の端を左へ曲がり、南納屋町商店街の細い通りを南へ抜け、運河にかかる『ほうらい橋』と名付けられた小さな橋を渡ると、そこはもう中書島の通称で知られた柳町。この『ほうらい橋』の手前を西に二〇メートルばかり行くと、右手に見える古い家屋。それが寺田屋騒動の舞台となった旅館の寺田屋。すでに述べたようにこの伏見は、古代から近代に至るまで、交易の中心として栄え、また、伏見で産した酒の積み出し港としても重要な位置を占めていました。同時に、この寺田屋騒動や、『鳥羽・伏見の戦い』の史跡などからも明らかのように、それぞれの社会の変革期にあつて、洛南に位置するこの伏

見が、一定の役割を果たした史実も忘れてはならないと思います。

長建寺

さて、京阪中書島駅から少し離れた東柳町の、派流（運河）に面した一角に、長建寺という真言宗の寺があります。長建寺は、一六九九年、時の伏見奉行建部内匠の頭が中書島を開発するにあたって、深草大亀谷の即成就院の塔頭多門院を移し、自分の姓の一字を入れて長建寺にしたとか。この寺の本尊は八智弁財天で、古代のインドでは音楽をつかさどる神。その関係からか、日本でも花柳界の人々の信仰を集めていました。貧しさゆえに廓に身を投じた女性は、さらに、廓奉公している唯それだけの理由で、すさまじい偏見と差別の視線にさらされ、死んでも一般の寺では、弔いすら出してもらえなかつた。

云われています。そうした遊女と呼ばれた女性たちに対する差別は中書島界限の廓でも同じだったと思います。この長建寺も、そうした中書島の廓に身を沈めた女性たちの菩提を弔い、その霊を慰めるために建立されたのではないかと私は思うのです。

長建寺では、毎年七月の二三日に例祭が行われ、『伏見の弁天祭』として世上にも広く知られ、かつては宇治川に箒船を浮かべての勇壮な船渡脚も行われていましたが、今は川幅も狭くなり、中絶しているとの事です。

中書島の廓と共に発展したこの寺も、廓の廃止後は、訪れる人も少なくなり、山門は風雨にさらされ、土塀の朱も心持ち色褪せて感じられるのです。しかし、その長建寺の山門の前を通る私の脳裏には、廓に身を沈め、毎夜、行きずりの男に自分の身を売らねばならなかつた女性たちの悲鳴と嗚咽とが生々しく甦るのです。そして、長建寺の土塀が朱に染まっているのは、そんな不憫な女性たちの血と怨念が塗り込められているからではないか。私はそんな幻想にも駆られるのです。

次号につづく……



◇アジア国際夏期学校・オリエンテーション及び開校式
七月十五日(出)十六日(日)、今年度一韓国セミナー事前学習会等。詳細は事務局の方までお問い合わせください。

◇土曜学校・キャンプ
七月二十七日(休)二十八日(出)の一日泊二日。対象一土曜学校に来ている小学一、二年生。場所一京都市百井キヤンブ場。

◇日曜学校・キャンプ
八月四日(出)五日(出)の一日泊二日。場所一大黒谷キヤンブ場。

◇夏期休館日
八月十一日(出)十六日(休)まで。十八日(出)より平常通り開館いたします。

編集後記 井

世間では、連日オウム真理教の報道が賑々しくなっています。しかし、何が本当のところ真実なのか我々にははつきりと見えてこないところが恐ろしさがあるような気がします。一連の事件で亡くなられた方々のご冥福を祈るばかりです。

次号まで、さようなら。